

〈講演会報告〉

(平成 28 年 11 月 3 日実施)

淡路島の医療を考える

淡路島の 産科医療の 現状と 高齢化社会に ひそむ問題

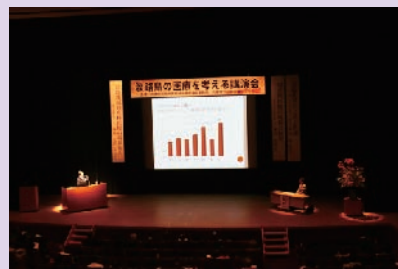
兵庫県立淡路医療センター
院長 小山 隆司

淡路島で無事に出産し、しっかり子育てしたい。淡路島に生活する、あるいは淡路島出身のお母さんの強い希望でしょう。しかし、島内の二つの産科施設が分娩を中止したために、淡路医療センターの分娩件数が急増。当センターの産婦人科医、助産師をはじめ小児科医などの負担も日に日に増えています。この窮状を多くのの人に知ってもらいたいと考え、昨年11月3日に「淡路島の医療を考える」と名打って講演会を開催しました。講演会は二部構成で、第一部を産科医療、第二部では高齢化の著しい淡路島でのもう一つの問題として、高齢者の救急医療を取り上げました。当日は、250名の方に参加していただきました。

二つのテーマともに奥が深く、一回の講演会で結論が出る問題ではありません。結論が出ない不消化なままの会であったかもしれないと思いますが、現状報告はできたかと考えています。

産科医療をどう守るかは待ったなしの問題です。洲本健康福祉事務所のコーディネートのもと、3市、*聖隷淡路病院、そして淡路医療センターで問題解決のために淡路圏域産科医療連絡会を設置し、どうすれば淡路島のお母さんが安心して出産できるかを現在検討しています。

*現在、淡路島内で分娩を取り扱う施設は、聖隷淡路病院と兵庫県立淡路医療センターの2施設です。



第2回 淡路医療センターフェスタ

島内病院を招いて大盛況！

11月20日(日)、地域住民に親しまれる病院を目指すとともに、幼少期の医療業務体験等を通じて、職業としての病院勤務の魅力を発信するため、第2回淡路医療センターフェスタを開催しました。今回の特徴は、島内の複数の病院に参加していただいた点です。各病院で設置していただいたブースでは、健康相談や特徴のPRなど、様々な活動が行われていました。当院も負けていません。地域医療連携室主催で、当院の役割を分かりやすく説明した、観客参加型の「ミニドラマ」を演じさせていただきました。出演していただいたお客様、本当にありがとうございました。これらを通して、それぞれの病院に対して、親しみを抱いていただけたのではないのでしょうか。

また、今回もちびっ子たちは着衣体験に興味津々でした。手術着や看護服を着てぼっちりポーズを取るちびっ子たち、とてもいい笑顔です。この体験を通して、少しでも病院勤務の魅力を感じてもらえたならありがたいなあ、と思うところです。

そうそう、今回は前回の豚汁に続いて、ぜんざいをご用意させていただきました。寒さが深まる季節、あたたかいぜんざいを食べて、ほっとしていらっしゃる方を見かけました。

公開講座も開かせていただきました。「認知症について」というテーマのもと、1時間程度講義をさせていただきました。講師の話に真剣に耳を傾けている参加者の姿を良く覚えています。

そんなフェスタの開催時間は2時間でしたが、あっという間に終わってしまいました。とても充実した時間を過ごせたのではないのでしょうか。参加者のアンケート結果からも、「とても良かった」、「良かった」というご意見が95%以上であり、淡路地域の中核病院として、一定の役割を果たせたのではないかと考えています。今後とも、地域に親しまれる病院を目指してまいりますので、よろしく願います。

平成27年度 決算の状況について

平成27年度の当医療センターの決算は、前年度と比較して307百万円改善しましたが、239百万円の赤字となりました。新病院への移転から3年が経過する中、早期の黒字経営を目指して職員一丸となって取り組んでいます。

区分	単位	平成26年度		平成27年度		
		決算額 A	決算額 B	前年対比 (B-A)		
業務量	入院	延患者数	人	135,271	132,007	△ 3,264
		1日当たり患者数	人	371	361	△ 10
		新規患者数	人	11,056	11,542	486
	外来	延患者数	人	197,732	204,090	6,358
1日当たり患者数		人	810	840	30	
新規患者数		人	17,709	18,256	547	
収益	①	百万円	12,394	12,853	459	
	(うち、入院収益)	百万円	7,522	7,850	328	
	(うち、外来収益)	百万円	2,333	2,395	62	
費用	②	百万円	12,940	13,091	151	
差引損益	③(①-②)	百万円	△ 546	△ 239	307	